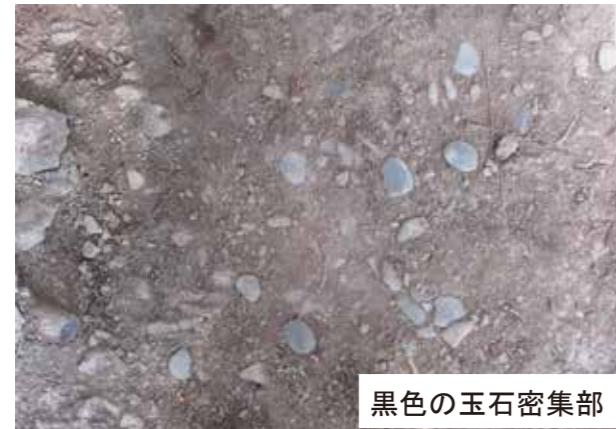


○伝「台所」の発掘調査成果～土岐氏の装飾的な庭園～

伝「台所」では、昨年度の調査で池をもつ庭園の痕跡を確認しています。今年度は、池の縁辺に沿つて敷かれていたと考えられる黒色の玉石の広がりを確認しました。また、曲輪東側の一段下がった部分では、装飾的な石垣を確認しています。



○今回の調査でわかったこと

曲輪群では、両側面に石垣をもつ中央通路を確認しました。土岐氏は曲輪群の中央に直線的な通路をつくり、さらに両側面を石垣によって構えることで、**守護としての権威**を示していたものと考えられます。また、多量の遺物が出土し、しかも曲輪ごとにその様相が異なることから、曲輪の使われ方に違いがあった可能性があります。かわらけの出土が大半を占める西側の曲輪は、酒宴の場であったのでしょうか。

伝「台所」では、庭園の構造がさらに明らかになりました。**装飾的な庭園**をもつこの曲輪は土岐氏の趣向があらわしているのかもしれません。

山県市教育委員会生涯学習課文化財調査室 TEL 0581-32-9008

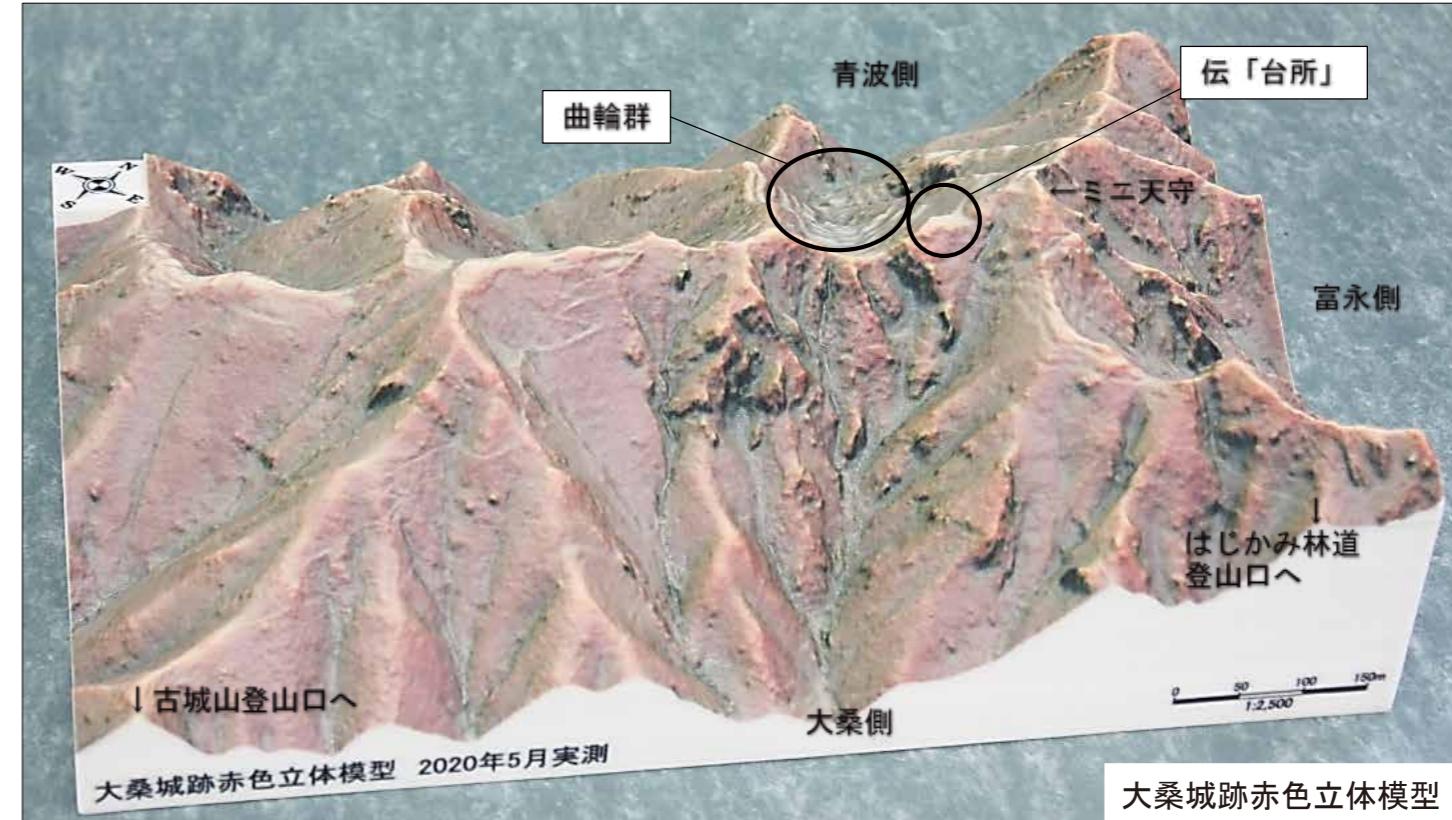
令和4年度

大桑城跡発掘調査 現地説明会資料

大桑城は、美濃国の守護土岐氏が戦国時代に整備した山城です。

山県市では、大桑城跡での発掘調査を令和2年度から継続しており、今年度も昨年度に引き続いて、曲輪群（くるわぐん）と「台所」と呼ばれる場所（伝「台所」）を調査しました。

○発掘調査の位置



○大桑城の位置



○調査の概要

調査場所：曲輪群、伝「台所」（上記参照）

調査期間：令和4年8月29日～12月中旬

調査面積：約70m²



○曲輪群の発掘調査成果～中央通路を確認！～

曲輪群は、人工的に造られた大小 20～30 の平坦地が集まる場所で、**大桑城最大の特徴**とも言われています。今回の発掘調査では、美濃国守護土岐氏が築いた**石垣をもつ中央通路**を確認しました。両側面に石垣をもつ直線的な通路は、**土岐氏の権威を象徴**しているのかもしれません。



＜調査 data＞

- ・確認された通路幅は約 2.2m
- ・通路東側石垣
延長約 5.3m、高さ約 0.6m
幅 50～60 cm程度の石材を使用
- ・通路西側石垣
延長約 1.0m、高さ約 0.7m
幅 20～30 cm程度の石材を使用
背面に裏込め石を充填

※裏込め石…排水のために、石垣の背面に入れられた石のこと。



＜確認された石垣＞

通路東側の石垣は、幅 50～60 cm程度の**大きな石材**を使用しており、通路西側の石垣は幅 20～30 cm程度の**小さな石材**を使用しています。このことから、通路東側の大きな石材を使用した石垣は、**視覚的な効果**を狙った可能性が高く、もしかしたら、この石垣の近くに**東側曲輪への入口**があったのかもしれません。逆に、小さな石材を使用した西側の石垣は、曲輪の入口とは少し離れていたのかもしれません。

確認された石垣の高さは、東西それぞれ 1 m未満ですが、本来は**もう少し高く積まれていた**と考えられます。

○曲輪群の発掘調査成果～多量の遺物が出土～

曲輪群では、中国から輸入した磁器や国産（瀬戸・美濃地方）の陶器、素焼きの皿（かわらけ）など、**350 点以上の遺物**が出土しました。

出土した遺物は、大桑城が機能していた時期（1535～1550 年頃）と整合し、**土岐氏の時代に曲輪群で居住していた**可能性はかなり高いです。

また、中央通路をはさんで東西の曲輪では、出土する**遺物の様相が異なる**ことから、**曲輪の使われ方に違いがあった**のかもしれません。



国産（瀬戸・美濃地方）陶器



中国から輸入した磁器



国産（瀬戸・美濃地方）陶器 皿

素焼きの皿（かわらけ）

灯明皿

＜調査 data＞

- ・通路をはさんで東側の曲輪…中国から輸入した磁器、国産の陶器が大半
かわらけの割合少ない（全体の 15% 程度）
- ・通路をはさんで西側の曲輪…かわらけが大半（全体の 70% 程度を占める）